椎田町

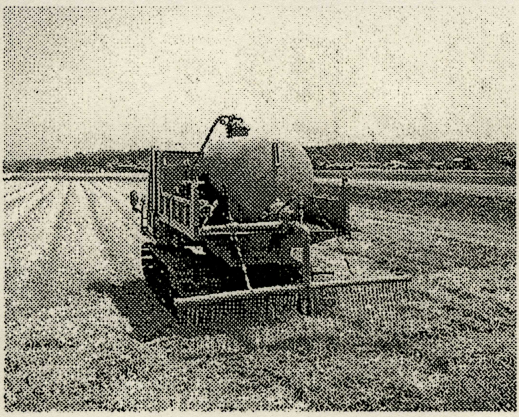
廃消火薬剤を液肥に再生

10ヘクタールに500t投入予定

椎田町はし尿から製造した有機液肥に、廃消火薬剤を混合し、米や一部麦などを栽培する農地約10ヘクタールに計500トンを散布する予定だ。同様の実験は昨年より開始しており、町は添加によるリン酸成分増加の効果がみられれば、廃消火薬剤の本格的な使用を検討する。

消火薬剤は消火器メーカーのモリタ（大阪市、新村鋭男社長、☎06・6756・0100）が北海道と沖縄を除いた全国から回収した期限切れ消火器に入っていたもの。モリタは独自開発の技術でこれら廃消火薬剤を肥料原料に生成している。昨年で約1300トンを回収、うち1000トン程度を加工した。現在は肥料メーカーに売却したり、他物質を配合して、肥料として一般量販店などで販売している。

椎田町内のし尿は、町内施設に回収、異物を除去し、ろ過してパイプで成熟槽に移送。水中エアレーターで泡状の空気を送り込み、好気性発酵菌による分解を促



液肥散布のようす

混ぜ込み、現地散布する。液肥2・5トンに対し、モリタ1号を5キロ投入、通常の完成液肥1000リットルにリン酸成分を2キロ追加したことになる。

同町の液肥はチッソ分が多く、リン酸成分を添加すなどでその効果をみる。

椎田町は「昨年はレタス・高菜・麦などの農地に散布し、一定の効果がみられた。米は町の主要な農産物の一つ。これで成功すれば積極的に導入を検討したい」（田村係長）としている。